

P2

特集

県南地域における 避難者支援のいま

「東日本大震災による避難者を支援する
秋田県南連絡協議会」の取り組み

P3

わくわくげんき

P4~P5

まちなかのひかりとかぜ。

NPO 法人秋田内陸線沿線地域
エコミュージアム会議（仙北市）
角館町ホームステイ村（仙北市）

P6

その食を巡るストーリー。

生産者 × 加工組合 × 菓子製造・飲食店 × 高校生（湯沢市）

P7~P8

インフォメーション

P8

サポートセンタースタッフのつばやき

P1 今月の表紙「子どもの学習支援」

「ここはどうなると思う」「さっきの解き方でいいんだよね」一生懸命問題の解き方を考える児童と、優しく見守り答えるプロの塾講師。これは県南地区で避難生活を送っている小中学生を対象とした学習支援のひとつです。震災発生後、勉強できなかった時間を取り戻せると保護者にも喜ばれています。（「特集」東日本大震災における避難者を支援する秋田県南連絡協議会）

▶今年3月に大仙市の市民交流プラザのびのびらんどで行われたひなまつり交流会の様子。地域の人やボランティア団体も含めて約50名の方が集まり、交流を深めた。



特集 県南地域における 避難者支援のいま

「東日本大震災による避難者を支援する
秋田県南連絡協議会」の取り組み

震災から2年半経った平成25年9月2日現在、県南地区では301の方が避難生活を送っています。今年2月、それまで避難者への支援を個別に行ってきたNPOと行政とによる県南地区の連絡協議会が設立され、官と民によるネットワークが構築されました。多様な主体による連携はどんな効果をもたらしているのでしょうか。



◀横手市の高齢者センターに設置されている避難者交流サロンの様子。横手市では、地域のボランティア団体が主体となってサロン運営に関わっている。

東日本大震災による避難者を支援する秋田県南連絡協議会



●会長 丹 すみ子 さん
(ゆざわフレンズネット)

●活動内容

福島県ふるさとふくしま帰還支援事業*1の助成金を活用して、主に福島県から避難している人たちを対象にした支援活動を行う。居住地により異なるニーズに合わせて、県南3地域に分かれて支援を行いながら情報の一元化を図っている。

●構成団体

【仙北地域】(特非) 角館総合型地域スポーツクラブ、大仙フレンズ連絡会*2、仙北市、大仙市、美郷町、仙北地域振興局／【平鹿地域】(特非) 秋田県南 NPO センター、横手市、平鹿地域振興局／【雄勝地域】 ゆざわフレンズネット*2、湯沢市、羽後町、雄勝地域振興局

協議会では、仙北市と大仙市、横手市に設置されている避難者交流サロンの運営やサポートを行っています。これは避難された方の交流や情報交換を目的とした場です。サロンでは県の支援員が避難生活の不安や悩み等の相談に応じている他、地域で行われているイベント等のチラシや被災地の新聞などが置かれ、幅広い情報を収集することができま

す。また、協議会では避難者が地域住民とつながることで、地域での支え合い体制を作ることや目的とした交流イベントも実施しています。先月は湯沢市で「縁日、郷土料理で昼食交流会」(「わくわくげんき」参照)が開催されました。これらのイベントには、楽しい時間を過ごすことで疲れた心を癒し、明日への活力を生み出すというねらいもあります。

7月には、横手市の南部男女共同参画センターを会場に県南地区に避難している小中学生を対象とした学習支援を始めました。プロの塾講師による個別学習指導によって、震災で滞ってしまった学習の遅れを取り戻すことを目的としています(表紙参照)。

協議会会長の丹すみ子さんは「これまでNPOや行政はそれぞれの立場で避難者支援を行ってきたが、その情報を共有する機会が少なかったように感じる。協議会を設立し、取

り組みにかけ、協議会がスムーズになったりしたことで、互いの得意分野を活かして役割分担することができ、避難者へのきめ細かいサービスにつながっている。今後も各地域で支援活動の更なる発展に努めたい」と語りました。多様な主体が地域を超えてつながることで窓口が一元化され、情報収集や発信、提供がスムーズになりました。支援者は互いに助け合うことで活動の幅が広がり、避難者は地域を超えた情報が届くことで、遠方のイベント等にも参加できるようになりました。避難者支援活動をしている方や想いのある方、ぜひこの取り組みを参考に活動の幅を広げて行きませんか。

*1 福島県ふるさとふくしま帰還支援事業(県外避難者支援事業)

*2 フレンズ連絡会
福島県の事業で、県外に避難している人たちが安心して暮らし、最終的には福島に帰還できるよう、避難者のニーズに合わせた支援活動事業を行う団体等に対して支援を行うもの

※問合せは事務局(秋田県南NPOセンター)まで

さわやか福祉財団の考え方の基、NPOや社会福祉協議会、行政等で構成されている。地域に支え合いのしくみを作ることを目的に、地域課題解決や夢の実現について話し合い、様々な取り組みを行う

TEL 0182-337002

伝えるべきことを的確に
気持ちを込めて！

横手高校定時制生徒が行く！

わくわくげんき

Vol.2



4年 伊藤健太 4年 土田大介
くさなぎのぶやす
3年 草薙 仲康



8月3日、湯沢市の岩崎ふるさとふれあいセンターで、ゆざわフレンズネットと NPO 法人まごころサービス福島センターとの協働による「縁日、郷土料理で交流昼食会」が行われました。これはゆざわフレンズネットが東日本大震災による避難者の方々と継続的な心のつながりを築いていこうという思いを込めて行ったもので、約70人が参加しました。

福島・秋田両県の郷土料理を全員で味わいながらお互いに近況報告。福島県から参加した子どもが御礼にとリコーダーの演奏をすると、主催者からも歌と太鼓の演奏が贈られました。心と心のつながりを実感した瞬間でした。(記者：土田)

◀ 子どもたちが思いきり楽しめるようにと工夫された会場には、射的や輪投げなどの手作り屋台が並び。



ゆざわフレンズネット
(湯沢あかねの会)

代表 丹 すみ子 さん

震災後早くから被災者支援活動に取り組んでいるゆざわフレンズネット。昼食交流会も今回で2回目の開催です。丹さんは「一緒に郷土料理を作るということは信頼関係がないと成り立たない。一緒に食べることで新たなつながりも持てる」と楽しそうに語りました。(記者：伊藤)



ゆざわフレンズネット
(湯沢市社会福祉協議会)

事務局 赤平 一夫 さん

被災した方々の気持ちを少しでも和らげ、楽しんでもらおうという思いでこの会に臨んだ赤平さん。「子どもたちの楽しそうな笑顔が、お母さん方やスタッフに元気をくれた。喜んでもらえて嬉しい。今後は企業にも参加してもらい、つながりの輪を広げたい」と語りました。(記者：草薙)

まごころサービス福島センター
「元気虹の和プロジェクト」

事務局 三浦 恵美里 さん



福島県からの参加者と一緒に1泊2日の日程で湯沢を訪れた三浦さん。「除染作業が進み、日常生活には問題ない。しかしまだ川や海に入ることはできない。昨日は湯沢で川遊びを楽しみ、今日は食による交流もできた。子どもたちの笑顔が見られて嬉しい」と語りました。(記者：草薙)



心にのこったことを教えて？

(記者：土田、草薙、伊藤)

小学5年 ひえだ りゅうと
稗田 琉斗 さん

今日はたくさんしゃのや輪投げのゲームをやれて楽しかった。特にしゃのがおもしろくて、何回も並んでちょうせんしたらおもちゃがたくさんもらえてうれしかった。次もあったらまたやりたいな。



小学3年 めい
岩間 芽生 さん

しゃてきがおもしろかった。いっぱいおれただよ。料理もおいしかった。どれもおいしかったけど、一番おいしかったのは浪江^{なみのえ}やきそばだよ。楽しかったからまた参加したいな。イベントをしてくれてありがとう。



小学5年 たいと
三浦 大翔 さん

湯沢のだまっこ汁がとってもおいしかったです。ボランティアの福島大学の人も仲よくなったのでよかったです。これからもこのような行事を企画してほしいです。



THEME_ボランティア団体/NPO

まちは宝いっぱい博物館

～地域を越えて紡ぐ地元の魅力～



DATE_団体情報

特定非営利活動法人

秋田内陸線沿線地域エコミュージアム会議（仙北市）

代 表／三浦陽一さん

連絡先／TEL.090-2738-9405（事務局 大穂耕一郎さん）



車窓から心地よい風が入ってくると爽やかな里山の風景が見えてきました。角館駅と鷹巣駅を結ぶ秋田内陸線鉄道が今日も元気に走っています。この鉄道の沿線地域の活性化に取り組む団体があります。

廃止検討を機に改めて見つめる資源

きっかけとなったのは、内陸線の廃止が検討されるようになる中で始まった秋田内陸線沿線地域元気再生プロジェクト*1。これに参加し、半年間の話し合いを経て地域資源の豊かさを実感したメンバーは、資源を活かして地域の魅力を向上させることが鉄道利用客の増加に繋がることに気づいたのでそうです。

そこで内陸線沿線地域をエコミュージアム*2という手法で元気再生させ、新幹線が停まる角館駅や大館能代空港の利点を活かして着地型観光を目指す特定非営利活動法人秋田内陸線沿線地域エコミュージアム会議を立ち上げました。

まちづくりの主役は地域住民

主な活動は、地域住民を巻き込んでまちの魅力を

掘り起こす場づくりを行うことです。これまでに参加者からは地域が持つ歴史や街並み、風景などが挙げられており、それらの資源を地図に起こし、散歩できるようなコースを整備しています。この取り組みはフットパスと呼ばれています。フットパスは仙北市内のみならず内陸線停車駅の6駅で実施しており、今後も広げていく予定だそうです。代表の三浦陽一さんは、この取り組みを発展させ、いずれは高齢者が地域の案内人として活躍するなど、住民の生きがいをづくりや居場所づくりにもつなげたいと考えています。「ここで暮らす人が地域の良さに気づき、誇りを持って暮らせるようになってほしい。人が輝いてこそ地域の魅力が増していく。住民と行政が立場や地域の枠を越えて、みんなでまちを盛り上げていきたい」と意気込みを語りました。

人、自然、歴史、食、生活の知恵…土地の宝を1つ1つ大切に紡ぐ会の活動。その活気は地域を越え、秋田の元気の源になっていくことでしょう。

（記事：静岡県立大学 宮崎真菜）

*1 平成21年、仙北市の提案で内閣府の「地方の元気再生事業」に採択されたプロジェクト。チーム構成員は、秋田内陸線支援団体や地元まちづくり団体、鉄道会社、行政などの多様な主体

*2 住民の手によってその地域に受け継がれてきた自然や文化、生活様式などを含めた環境等の資源を活かし、博物館のように楽しめるようなまちづくりを行うという考え方



THEME_CB (コミュニティ・ビジネス)

都会と違う風の匂い

～ホームステイという形の宿泊・体験支援～



DATE_団体情報

角館町ホームステイ村 (仙北市)

代表 / ^{きつねぎきとしろう} 狐崎捷琅さん

連絡先 / TEL. 0186-54-3463



ホームステイという形での宿泊支援

仙北市角館には、遠方から訪れた人の宿がとれない時に宿泊支援をしている団体があります。宿泊業者が廃業し、地域を訪れた人が泊まれる施設が少なくなったという声を聞いた住民が集まり、平成14年、地域の活性化を目的とした団体、角館町ホームステイ村が立ち上がりました。会員は7名。それぞれが家をホームステイ先*1として提供しています。

宿泊希望者は直接団体へ連絡するほか、角館町観光協会を通じて申し込むことができます。中には英語が堪能なメンバーもあり、外国人にも好評なんだとか。家に泊めることで親しくなり、繰り返し訪れるリピーターも多いといいます。特に大曲の花火大会や田沢湖マラソンなど行事の時には満員になります。

旅行法の関係で宿泊者の滞在は1週間以内、原則素泊まりで、一泊3,000円、二泊目以降2,500円を謝礼としてもらっています。飲食や入浴については地域の施設を紹介することで、地域経済の活性化につながっています。最初は気軽に泊まれる民宿にしようと考えていましたが、宿泊等用途変更の規制が厳しく断念したそうです。

農家民宿という新しい方向性

ホームステイ村がある雲然地区では定年退職となった元兼業農家も増え、今後は農家民宿等グリーン・ツーリズムに移行することを検討しているそうです。

農家民宿*2とは農山村の生活及び文化にふれる体験等を提供できる宿泊施設をいいます。平成17年からは農村休暇法等の規制緩和により、旅館用途に供する面積が50㎡以下で客室面積33㎡(20帖)未満の場合、現状家屋のままで開業できるようになりました。それまで厳しかった防火安全上の措置についても、外にすぐ避難できるなどの条件を満たすことにより、誘導灯、誘導標識の設置が不要になりました。空き家や空き部屋などを利用して少ない資金で始められ、兼業として行う人もいます。

ホームステイ村の会員が訪れた人に言われたという印象的な言葉—「都会とは風のおいが違う」。セミの鳴き声が心地よく鳴り響く静寂な佇まいの中、都会ではなかなか経験できない大家族のような生活を提供しています。地域住民との交流による新しい観光スタイルが普及し、住む人訪れる人がさらに元気になる日も近いかもしれません。☑

*1 ホームステイ 留学生などが滞在地域の一般家庭と寄宿し生活体験をすること

*2 農家民宿 農家民宿の開業に関する相談は、NPO法人秋田花まるっグリーン・ツーリズム推進協議会、各地域振興局農林部農業振興普及課、県観光文化スポーツ部観光戦略課で受け付けている

その食を巡るストーリー。

～人とヒト、地域をつなぐ、食のおはなし～

vol.05



This Story | 生ごみ × 物流企業 × 生産者 (横手市)

物流企業が生ごみを資源に

スーパーマーケットの一角に、つやつやとした色合いが美しく、はじけるような瑞々しさを感じさせる野菜が並んでいます。買い物が立ち止まっては次々と手に取り、収めていくその先には「エコフード」「YOKOUN」と書かれたパネル。この野菜は、地元農家と物流業を営むヨコウン株式会社との協働で生産されているものです。

ヨコウンは横手市内のスーパー等から収集した生ごみを専用処理機でコンポスト化*1し、農家に無償で提供。農家はこれを土壌改良材として使用したり、もみ殻や畜ふん等を混ぜて二次発酵させ、堆肥として使ったりして野菜を作っています。栽培された野菜は、ヨコウンがスーパーと契約しているスペース

に陳列され、販売されています。ヨコウンではこの仕組みをフードリサイクルと呼んでいます。代表取締役の塩田充弘さんは「今は新しいものを作り、いらぬものは捨てるという時代ではない。ごみを減らして循環させることで、地球環境や地域社会に貢献したい」と言います。

野菜本来の味を伝えたい

平成11年から始まったこの取り組みは年々ロコミで広がり、現在、県南地区の8世帯の農家がこのコンポストを利用して野菜を作っています。平成11年当時の利用者である佐々木正一さんは「ヨコウンのコンポストを使うようになって収穫量が増え、作物の甘みも増して美味しくなった」と嬉しそうに話

します。その良さを実感し、その後は他の肥料を使うことがなくなったのだそうです。フードリサイクル事業担当の伊藤和輝さんは「コンポストを使うことで土壌はゆっくりと改善され、ミミズが多く生息する、養分をたっぷり含んだ土に生まれ変わるのだと思います。そこで育った野菜は本来の味や旨みが引き立ちます。この美味しさを子どもたちに伝えていきたい」と意気込みを語りました。

コストや手間はかかっても環境へ配慮し、食本来の味を追求する農家や食品小売業。そして、物流を手がけてきた強みを活かしてそれぞれをつなぎ、循環型の農業システムを構築したヨコウン。この取り組みにける想いは住民へと伝わり、多くの笑顔を生み出しています。



*1 エコフード 生ごみを攪拌しながら、微生物の働きを借りて土のような状態に戻すこと

YOKOUNのエコフード

農家がヨコウンのコンポストを利用して作った野菜は、スーパーマーケットよねやハッピータウン店の専用コーナーに設置されている。

アスパラ、なす、トマト、ししとう、きゅうり、枝豆、ニンニク、里芋、ぶどうなどが手に入る。

ヨコウンのコンポストは、会社敷地内に設置されているリサイクルハウスで作られている。

問合せ：ヨコウン株式会社

TEL. 0182-32-3667



オクラとマイタケの焼きびたし

【材 料】 オクラ：50g/マイタケ：80g/すだち：2個/ほんだし：おおさじ1杯
2人分 お湯：150cc/しょうゆ：おおさじ3杯/酒：大さじ2杯/塩：適量/サラダ油：適量/七味唐辛子：適量

【作り方】 ①オクラは塩もみし冷水で冷やす/②マイタケはがくを取り、食べやすいサイズに切る/③お湯にほんだしを入れ冷まし、そこにしょうゆと酒を加えタレをつくる/④フライパンに油をしき①→②の順で焼く（※オクラは焼きすぎないように。オクラの表面に水滴が出てきたらOK）/⑤オクラを1/2にカットする/⑥③のタレにマイタケ、オクラ、輪切りにしたすだちを加え和える/⑦⑥を冷蔵庫に15分ほどおき、味がなじんだら完成





INFORMATION

Event イベント情報

TERM

2013/09/15 - 2013/10/29

横手語りのまつり
かだろ、語ろう、文化の交流会

09/15

幼いころを思い出すような昔語りに、踊りや歌、太鼓などの演奏。横手の文化を感じながら、しみじみと懐かしいひとときを過ごしませんか。

日時：9月15日(日) 12:40~16:40

場所：かまくら館(横手市)

参加費：無料

問合せ：横手ふるさと語りの会とつびんばらりのぶー

TEL.080-5225-5903(菅原さん)



秋の野山で遊ぼう

10/06

秋の野山でネイチャークラフトやアウトドアクッキングに挑戦！保呂羽の自然に親しもう。

日時：10月6日(日) 9:00~15:00

場所：保呂羽山自然少年の家(横手市大森)

参加費：1000円(昼食、保険代)

対象：小学生、保護者の参加も可 定員：20名

締切：9月27日(金) 申込・問合せ：ほろっとキッズ

FAX：0182-22-4517(沼館保育園 高橋さん)

E-mail.numadatehoikuen@r3.dion.ne.jp



東成瀬村 仙人郷まつり 2013

09/29

宮城県名取市のゆりあげ港朝市が東成瀬へやってくる。復興を応援する県内団体もご当地グルメを出展します。うつくしま復興PR隊、みんなで踊る「総踊り」など企画も盛りだくさん。買って交流することから始まる被災地支援に参加しよう。

日時：9月29日(日) 9:00~14:30

場所：東成瀬村多目的グラウンド駐車場特設会場

参加費：無料

問合せ：東成瀬村商工会

TEL.0182-47-2151



こまちハート・オブ・ゴールドフェスティバル 10/06

おがち健康マラソンに合わせて、ニュースポーツを楽しむフェスティバルを開催。フリーテニス、ビーンボリング、フリーブロー、スカイクロスなどに挑戦してみませんか。

日時：10月6日(日) 13:00~15:00

場所：雄勝中学校体育館

参加費：無料

問合せ：NPO法人こまちハート・オブ・ゴールド

TEL.0183-52-5380



あなたの胸にひびきます じんじん

10/02

俳優の大地康雄が北海道で出会った感動を形にした映画です。絵本を真ん中に置きながら、人の心の優しさと親子の絆をテーマに心に染みわたる物語が広がっていきます。

日時：10月2日(水) ①14:00~16:10 ②19:00~21:10

場所：横手市民会館

参加費：一般・前売り 1000円(当日1300円)

小中高生 800円(当日のみ)

問合せ：横手おやこ劇場 TEL.090-2848-0573(齊藤さん)

TEL.0182-33-0812(火・金10:00~14:30)



フラワーアレンジメント

Every Tue.

有市場直送のお花を使い、初心者からでも作れるアレンジメントをはじめ、季節の作品を作りましょう。1日2回開催。

日時：毎週火曜日 1回目 10:45~12:15

2回目 13:30~15:00

場所：醍醐公民館(横手市醍醐)

参加費：お花代、道具代などの実費

申込・問合せ：横手フラワーアレンジメント「花のん」

TEL.018-884-7233



INFORMATION

Sugitti スギッチファンド

今年もやります！県南地区あきたスギッチファンドチャリティイベント・ゴルフ大会

来る9月29日、横手市で開催される本大会は今年で3回目を迎え、横手市グラウンド・ゴルフ連盟横手協会の協力を得て、秋田県南NPOセンターの主催で運営しています。参加費の一部があきたスギッチファンドへと寄付され、様々なNPO等団体の活動を支える資金になります。

昨年はあいにくの天候でしたが雨の中170名を超える方々の参加があり、総額138,176円を寄付することができました。参加者からは「グラウンド・ゴルフを通して地域に役立てて嬉しい。ま

た参加したい」といった感想が寄せられました。成績上位者へ手渡された賞品の多くは、主旨に賛同した地元企業の提供によるものです。多くの協力によって、大会は盛況の中幕を閉じました。

この活動は、スギッチファンドや地域づくり団体の活動をより多くの人に知って頂き、理解や共感を頂くきっかけとなっています。市民活動は、多くの方の善意に支えられています。団体のみならずその想いに応え、取り組んでいきましょう。[T]

●第3回大会は、9月29日(日)、横手市赤坂総合公園グラウンド・ゴルフ場にて／参加費：1000円／締切：9月13日(金)／申込：秋田県南NPOセンター TEL.0182-33-7002(椿谷)



INFORMATION

Grant 助成金・関連募集情報

TERM

2013/09/30 - 2013/10/31



環境

TOTO 水環境基金

09/30

対象団体：地域に根差した活動を行っている営利を目的としない市民活動団体（法人格の有無は不問）

対象事業：①地域の水と暮らしの関係の再生または新しい文化の実現に向けた実践活動

②地域の水と暮らしの関係についての調査研究活動

助成金：80万円程度まで

助成対象期間：平成26年4月1日～平成27年3月31日

締切：平成25年9月30日（月）消印有効

申込・問合せ：TOTO株式会社 総務部 TOTO水環境基金事務局

TEL. 093-951-2224 FAX. 093-951-2718

関連URL：TOTOホームページ

<http://www.toto.co.jp/>⇒TOTO水環境基金 環境ボランティア参加者募集⇒基金に応募したい市民活動団体・NPOの方へ⇒応募要項



優れた非営利組織

第2回エクセレントNPO大賞

10/16

安定した組織を持ち、広く市民の参加を得ながら社会や地域の課題解決に向けた活動に取り組むことで成果を上げている「エクセレントNPO」を募集し、表彰します

対象団体：国内外における社会貢献を目的として活動する非営利組織（法人格の有無不問）

表彰：①エクセレントNPO大賞（賞状・賞金50万円） ②市民賞（賞状・賞金50万円） ③課題解決力賞（賞状・賞金50万円）

④組織力賞（賞状・賞金50万円）

締切：平成25年10月16日（水）消印有効

申込・問合せ：エクセレントNPO大賞審査委員会事務局 TEL.03-3548-0511（平日9:30～17:30） FAX.03-3548-0512

関連URL：「エクセレントNPOを目指そう」市民会議ホームページ

<http://www.excellent-npo.net/>⇒第2回エクセレントNPO大賞募集概要



環境

第24回コメリ緑資金

10/31

対象団体：団体所在地（市町村）で活動を行っている非営利団体

対象事業：花や緑に囲まれた美しいふるさとづくりを目的とした「花いっぱい運動」などの地域住民が行う公共性のある植栽・植樹活動。

ただし行政から管理委託された施設・場所で行う活動は対象外とする。

助成金：申請内容に応じて助成

助成対象期間：平成26年4月1日～平成27年3月31日

締切：平成25年10月31日（木）消印有効

申込・問合せ：公益財団法人コメリ緑育成財団

TEL. 025-371-4455 FAX. 025-371-4151

関連URL：コメリ緑育成財団ホームページ

<http://www.komeri-midori.org/>⇒公募助成⇒助成申込要項

秋田県ボランティア・NPO活動ニュース県南版

ハンサン

2013年9月10日発行

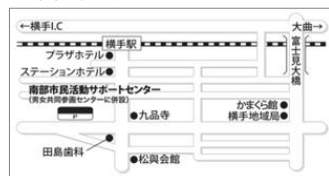
9月号 VOL.85

発行：秋田県企画振興部地域活力創造課

〒010-8570 秋田市山王四丁目1-1 TEL.018-860-1245

編集：特定非営利活動法人秋田県南NPOセンター（南部市民活動サポートセンター）

南部市民活動サポートセンター



〒013-0046 横手市神明町1-9

TEL.0182-33-7002

FAX.0182-33-7038

E-mail.ssc7002@luck.ocn.ne.jp

<http://www.akita-kenmin.jp/>

hg030001

【相談受付】月・火・水・金 9:00～18:00 土 9:00～17:00

【休館日】木曜日・年末年始（12/29～1/3）

サポセンスタッフの つぎやき VOL.04

インターン
宮崎 真菜

初めまして、静岡県立大学の宮崎真菜です。大学を休学し、7月から9月までの3ヵ月間、秋田県南NPOセンターでインターンをしています。富士山を眺めながら飲むお茶は最高です。秋田のみなさんにも是非遊びにいらして頂きたいです。

私の故郷はいずれ南海トラフ地震で被災するといわれています。だからこそ、何が起きても前を向いてしなやかに生きていける地域をつくりたい。そのヒントが秋田にありました。職業や年齢を越えた若者が対等に地域のことを考え、語り、動いていく「若者会議」。それによって人も地域も元気になり、秋田を大切にする輪が広がっていく。地元と真摯に向き合うメンバーの姿に日々心震えています。秋田で頂いた元氣と希望を静岡へ還していきたいです。